

人間社会学部／地域社会コース・総合人間社会コース	職名	講師	氏名	坂無 淳
--------------------------	----	----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

私の研究分野は社会学とジェンダー研究です。男女の平等や性別役割分業についてデータを集めることで、社会的に何が明らかになるか、どのようにジェンダー平等を達成できるか研究しています。具体的なテーマとしては、1つめに高等教育におけるジェンダー平等についてです。大学院生や入職の段階、研究者になった後など各段階でのジェンダー差やワーク・ライフ・バランスについて研究しています。2つめに、コミュニティと子育てについてです。日本の共同保育の事例研究や、ロンドンでのコミュニティ開発と子育てについてなどの研究をしています。3つめに、大学教育において学生の主体的な参加を促す技法についてです。これまで学生がデータを集め分析する科目を教えてきました。他科目でもファシリテーションなどの手法を取り入れています。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

湯川やよい・坂無淳・村澤昌崇, 2019, 「大学教授職研究は何をなしうるか——成果と展望」『教育社会学研究』104: 81-104.

坂無淳, 2019, 「統計学とデータ分析に対する知識と意識——社会科学を専攻する大学生の事例から」『福岡県立大学人間社会学部紀要』27(2): 75-87.

坂無淳, 2018, 「日本の高等教育と科学技術におけるジェンダー政策——男女共同参画基本計画と科学技術基本計画を中心に」『福岡県立大学人間社会学部紀要』26(2): 19-35.

### ②その他最近の業績

<学会発表・研究会>

坂無淳, 2019, 「移民女性への持続的なエンパワーメントはどのように可能になっているか」日本NPO学会第21回年次大会(於龍谷大学), 6月2日.

坂無淳・阪井裕一郎・堤圭史郎, 2019, 「福岡県における地方自治体のジェンダー政策——男女共同参画推進体制の類型化」第77回(2019年度)西日本社会学会大会(於佐賀大学), 5月25日.

坂無淳, 2019, 「ジェンダー・バランスの不均衡と研究活動におけるジェンダー差」第7回RIHE 広島大学高等教育研究開発センター公開研究会「日本における女性教員のキャリア: 現状と課題を多角的に考察する」(於広島大学), 1月25日.

Jun Sakanashi, 2018, “Gender Differences of Japanese Graduate Students’ Anxiety and Mental Health: Multiple Linear Regression and Quantile Regression Analysis”, World Social Science Forum 2018, Fukuoka, Japan, September 25-8.

坂無淳, 2018, 「大学のジェンダー施策の実態と課題——女性研究者支援モデル育成事業実施機関のホームページ調査から」第91回(2018年度)日本社会学会大会(於甲南大学), 9月15日.

坂無淳, 2017, 「大学院生の不安とメンタルヘルスに関する統計分析——ジェンダーの観点を中心に」第69回(2017年度)日本教育社会学会大会(於一橋大学), 10月21日.

坂無淳, 2017, 「研究者のキャリアとジェンダー、子育ての共同とジェンダー」2017年度第2回ジェンダー研究者ネットワーク会議(於公益社団法人アジア女性交流・研究フォーラム), 7月8日.

坂無淳, 2017, 「日本の高等教育、科学技術におけるジェンダー政策」第65回(2017年度)北海道社会学会大会(於北海道情報大学), 6月10日.

<報告書・書評・評論・エッセイ>

坂無淳, 2019, 「はじめて研究集会に参加して」『季刊保育問題研究』299: 163.

坂無淳, 2019, 「福元真由美著『都市に誕生した保育の系譜』——アソシエーションと郊外のユートピア」『図書新聞』3414: 3.

坂無淳, 2019, 「地方を変える女性たち——カギは『ビジョン』と『仕組みづくり』!」『Cutting-Edge』66: 2.

坂無淳, 2019, 「新任者・離任者・就職者から一言」『広島大学高等教育研究センター コリ  
ーグ』52: 15.

坂無淳 編, 2019, 『社会調査実習報告書 2018 社会学系学科卒業生の生活と意識に関する  
調査』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科. (全 150 ページ)

坂無淳, 2018, 「公益財団法人東海ジェンダー研究所編『資料集 名古屋における共同保育  
所運動 1960 年代～1970 年代を中心に』『立教大学教育学科研究年報』61: 101.

### ③過去の主要業績

長倉真寿美・岡田哲郎・坂無淳, 2016, 「石巻プログラム：高齢者福祉、地域福祉の知識や  
経験を駆使して——実務担当者からの解説」立教大学コミュニティ福祉学部東日本大  
震災復興支援推進室『復興支援ってなんだろう？——人とコミュニティによりそった 5  
年間』本の泉社, 121-7.

坂無淳, 2015, 「大学教員の研究業績に対する性別の影響」『社会学評論』65(4): 592-610.

坂無淳, 2014, 「都市における保育の共同——埼玉県新座団地の共同保育の事例から」『立  
教大学コミュニティ福祉研究所紀要』2: 61-80

### 3. 外部研究資金

科研費、若手研究（研究代表者）、高等教育におけるジェンダー・バランスの不均衡とそ  
の是正に関する実証研究、3770千円、2018～2022年

科研費、基盤B（研究分担者、研究代表者：藤井敦史）、社会的連帯経済の「連帯」を紡ぎ  
出すものは何か——コミュニティ開発の国際比較研究、15730千円、2018～2023年

科研費、基盤B（研究分担者、研究代表者：河野銀子）、女子の理系進路選択拡大に向けた  
STEM分野の新たな高大接続モデル——4か国比較から、15470千円、2019～2023年

科研費、基盤C（研究分担者、研究代表者：大久保淳子）、プログラミング的思考の育成カ  
リキュラムの開発——就学前～小学校の接続を焦点として、3510千円、2018～2022年

### 4. 受賞 該当なし

5. 所属学会 日本社会学会、日本ジェンダー学会、日本教育社会学会、北海道社会学会、  
西日本社会学会、ISA (International Sociological Association), RC32 Women, Gender,  
and Society, RC04 Sociology of Education

6. 担当授業科目 データ分析の基礎・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・  
前期、統計学・2単位・1年・後期、社会統計学Ⅰ・2単位・2年・前期、社会統計学Ⅱ・  
2単位・2年・後期、ジェンダー論・2単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ・各1  
単位・3年・前後期、社会福祉学演習・2単位・3年・通年、演習・2単位・3年・通年、  
卒業論文・6単位・4年・通年

### 7. 社会貢献活動

坂無淳, 2018～2020, 田川市男女共同参画推進センター運営委員・ゆめっせフェスタ実行  
委員.

『福岡県立大学人間社会学部紀要』査読者

### 8. 学外講義・講演

坂無淳, 2019～2020, 「令和元年度 地域のリーダーを目指す女性応援研修」アドバイザー,  
主催 福岡県・事務局 NPO法人 福岡ジェンダー研究所, 2020年2月29日ほか.

坂無淳, 2019, 「大学生が語る、ライフステージの中のジェンダー——山下泰子さんを囲ん  
で」ファシリテーター, あすばる男女共同参画フォーラム2019 フォーラムウィーク・  
イベント (於福岡県男女共同参画センター あすばる), 11月22日.

### 9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学平成30年度研究奨励交付金（プロジェクト研究（COC研究））（研究代表者、  
研究分担者：阪井裕一郎、堤圭史郎）、福岡県におけるジェンダー平等・ダイバーシ  
ティ実現の現状と政策的課題、2018～2020年

福岡県立大学平成31年度研究奨励交付金（横断型教育プログラム開発）（研究分担者、研  
究代表者：柴田雅博）、保健福祉情報教育プログラムの教育効果調査及び教材の開発、  
2019～2020年